

10回目「ケイ素umoは宇宙の母!?!」

こんにちは。一般財団法人UNI H&H大学院代表講師の植田です。

10回目は「ケイ素umoは宇宙の母!?!」というテーマについてお話しします。

皆さんが日々飲まれている水溶性ケイ素umoは、人体にとって重要な構成要素であるケイ素を簡単に摂取できるサプリメントですが、ケイ素は爪・髪の毛・骨や臓器などあらゆる組織に分布し、それらを鉄筋コンクリートの筋金のようにつなぎとめる役割があるとされています。

高齢になると、髪の毛のコシがなくなり、シミやシワが増え、骨も脆くなってきますが、これはケイ素が不足していることも1つの原因とされています。

また、女性に多く見られますが、骨粗しょう症やそれに起因すると考えられている指のヘパーデン関節も骨が脆くなって起こる症状であるとされています。

これは骨を作る細胞（骨芽細胞）よりも骨を壊す細胞（破骨細胞）の働きが大きくなったためです。ケイ素は骨芽細胞の働きを高める効果があることがすでに確認されています。

前回背骨についてお話ししましたが、いつまでも姿勢良く丈夫な骨を保つことは二足歩行の人間にとって非常に重要なことです。そのためには、骨がクリスタルのように美しく綺麗に響いていること、その維持のためにはハミング瞑想をしたり、モーツァルトを聴いたり、ケイ素を豊富に含む食事をとったり、私たちがお伝えした中でもできることがたくさんあります。

クリスタルすなわち水晶は99%以上がケイ素でできていますから、まさに体の中心軸である背骨をクリスタルのように響かせ、しっかり丈夫に保つことが大切であるということですね。

ケイ素は自律神経やホルモンバランスを司っている脳の中核「視床」という領域の、その中でも松かさのような形をした「松果体」という小さい器官に多く存在すると考えられています。

24時間の体内リズムを調整しているとされるメラトニンというホルモンもこの松果体と関係があります。

松果体は古来より第3の目とも呼ばれ、宇宙エネルギーと交信する場所と考えられてきました。

モーツァルトの楽曲に多く含まれる8000ヘルツの高周波の倍音はこの松果体と共鳴するとモーツァルトを長年研究していたトマティス博士は仰っています。博士は人生を通じて究極的には神性意識を得るための方法を追究されていたようです。

また、進化の過程を遡ってみると、大昔地球上に生命が誕生してまだ間もない頃、シアノバクテリアと呼ばれる生物がエネルギーの源として食べていたものは大地に豊富に含まれる「ケイ素」であったと考えられています。

そのような原核生物はその後、他の生物の細胞内に共生したことにより、今日でいうところの葉緑体やミトコンドリアといった器官に進化を遂げました。

ヒトの細胞は約60兆個であるとしばしば言われますが、その細胞1つ1つに約1000~3000のミトコンドリアが存在すると言います。これらは人間の活動を支えるエネルギー工場で、ケイ素とも深く関係があると考えられています。

以上のように見てみると、水溶性ケイ素umoは「宇宙」という風に当て字をすると、まさに「宇宙の母」という意味であるかのようにも思えてきますよね。

では、今回学んだことをぜひ日々の快禅メソッドの実践においても意識して取り組んでみましょう。10回目の動画は以上です。また次回お会いしましょう。